

事後評価報告書(日本-インド研究交流)

1. 研究課題名:「農村開発のための地理情報通信技術及びセンサーネットワークの開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 二宮 正士
(平成 20 年 2 月から平成 22 年 3 月まで農業・食品産業技術総合研究
機構 中央農業総合研究センター 研究管理監)

2-2. 相手側研究代表者:インド工科大学ボンベイ校 資源工学研究センター
主幹研究員 Adinarayana Jagarlapudi

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

地理情報通信技術とセンサーネットワーク技術により、インドをはじめとする諸国での農村開発に寄与する意思決定支援システム技術を開発したことは評価できる。これは、インド側の地理情報通信技術を応用した農村向け分散型連携支援システムに、新技術のセンサーネットワーク機能を付加することで実現した。テストベッドの運用まで行えたのは大きな成果であるが、運用の状況、評価についても報告が欲しかった。今後、実際の農場で用いられるように、さらに検討を進める必要がある。

(2)交流成果の評価について

日印双方の交流が、両者の人的信頼に基づいて十分に行われ、インド側の MOTE を使ったセンサーネットワーク技術と日本側のフィールドサーバを使ったセンサーネットワーク技術を相互補完的に融合できるレベルまで密な協力を行ったことが認められ、高く評価できる。また、共同研究に関するワークショップやセミナーを多く開催、参加している点も特筆に値する。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

特許出願がないのが残念である。センサーネットワークは新研究分野であり、今後の国際競争において海外出願も含め特許出願は重要と考えられる。プロジェクトに関する論文数が多いが、両拠点の研究者による共著論文、連名による学会発表ともやや少ないのが残念である。